

平成22年度 第4回経営協議会議事要旨

日 時 平成23年3月22日（火） 15時30分～17時00分

場 所 学長室

出席者 (学外委員) 井田委員, 大平委員, 沖田委員, 指山委員, 中尾委員,
川村委員 (TV会議)
(学内委員) 佛淵学長, 瀬口委員, 中島委員, 米倉委員, 宮崎委員,
鈴木委員, 上野委員

- ・会議に先立ち、東北関東大震災の被災者等に対し、哀悼の意を表し、黙祷を行った。
- ・議事に先立ち、学長から前回議事要旨の確認について依頼があった。
- ・川村委員のテレビ (Web) 会議による参加確認があった。

【審議事項】

(1) 国立大学法人佐賀大学職員給与規程の一部改正について

学長から、本件は、佐賀県委託の女性医師等就労支援事業に関して、復職を目指す女性医師等の研修を担当する医師の支援を目的とする復職研修指導手当を新設することに伴い、所要の改正を行う案件である旨の説明があり、審議の結果了承された。

その後、委員から、想定される人数及び事業期間について質疑があった。

(2) 国立大学法人佐賀大学契約職員給与規程の一部改正について

学長から、本件は、契約職員の高年齢者雇用により雇用できる者に、定年退職した職員も含めることができるよう制度を弾力化することに伴い、所要の改正を行う案件である旨の説明があり、審議の結果了承された。

(3) 平成23年度国立大学法人佐賀大学年度計画 (案) について

学長から、本件は、国立大学法人法施行規則第9条の規定に伴い、平成23年度の本学の年度計画を文部科学省へ提出する案件である旨及び年度計画における主な取組として「教育」、「研究」、「社会貢献」、「国際化」、「附属病院」、「業務運営」等、各分野ごとに平成22年度から平成23年度へ進展又は変更した点等の概要説明があり、審議の結果了承された。

その後、委員から、国際交流センター設置について質疑があった。

(4) 平成23年度国立大学法人佐賀大学収入・支出予算(案)について

—平成23年度予算編成における経営戦略について—

学長から、本件は、平成23年度本学の予算案に関する案件である旨及び収入予算において、附属病院収入の大幅な増加が見込まれること、また、「経営戦略」として、財務レポートの財務指標を活用した現状分析の結果、本学と同等であるGグループの平均を下回っている研究活動の投資状況を平均水準にするために経費の投資が必要であること、教育活動については、教育先導大学として特色ある大学を目指すため、教育経費への更なる投資が必要であること、外部資金の獲得状況がGグループの平均を下回っていることなどから、財務状況の改善を図るためには、更なる外部資金の獲得及び経費の戦略的な配分が必要となる旨の説明があり、その研究活動等への投資に伴う財源確保については、人件費の予算額と見込額との差額を財務状況改善のための教育・研究経費拡充分として重点的に充当するなど、平成22年度予算編成との大きな相違点について説明があり、審議の結果了承された。

(5) その他

特になし。

【報告事項】

(1) 第1期中期目標期間に係る業務の実績に関する評価結果(案)について

学長から、本件は、国立大学法人評価委員会からの通知内容等に対し、本学の大学評価委員会の審議・了承を踏まえ、「意見の申立ては行わない」こととした案件である旨及び概況として、「評価されている」取組と「改善を要する事項」について報告があった。

また、事務局長から、3月に予定していた本評価の結果確定については、東北地方の震災の影響により5月中旬に本原案のまま確定する方向である旨の補足説明があった。

(2) 余裕資金の運用について

学長から、本件は、本学の余裕資金について、平成23年度の運用方針を決定する案件であり、平成23年度の運用については、基本的に短期国債の購入を予定している旨の報告があった。

(3) 佐賀大学国際戦略構想について

学長から、本件については、中島理事を中心とした国際戦略構想委員会において、その内容を冊子にした旨及び佐賀大学国際戦略構想概要図(冊

子40頁)に基づき、本構想の概要報告があった。

(4) その他

① 市営バス佐賀大学直行便運行計画について

学長から、本件については、以前、大平委員から意見があったことから、佐賀市長と交渉したところ、4月から試行運行していただけることとなった旨の報告があった。

② 評価反映特別経費について

学長から、本件については、各部局等から提出された事業について、15名の評価委員による評価結果に基づき、予算配分を行った旨の報告があった。

③ サガン鳥栖への広告看板設置について

学長から、本件については、サガン鳥栖が総務省から獲得している交付金の主な事業であるサガン鳥栖健康増進プログラムに本学の医師も関与していること及び地域貢献の趣旨から、事務局配分の評価反映特別経費で本学の広告看板設置を行った旨の報告があった。

○ 本学の東北関東大震災の対応について

学長から、東北関東大震災の本学の本日現在における対応について報告があった。

【意見交換】

◎ 多額の経費を伴う主要事業について

学長から、本件は、今後、第2期中期計画期間の平成23年度から5年間に亘り、附属病院の再整備分を除いた、本学における多額の経費を伴う予定の主要事業について、事業ごとに概要説明があった。

次いで意見交換を行い、委員から次のような意見等が出された。

(●は学外委員の意見等、○が学内委員の説明等)

● 海外への留学生が少ないことを聞いているが、今後、増員計画はあるのか

○ 国際課を中心に、カナダ、アメリカ等英語圏の受入国への短期留学等を計画しており、経済的支援も校友会の経費等を考慮している。

また、ご指摘のとおり、他国へ留学する者が少ないことが大きな問題となっており、卒業旅行で初めて海外へ行き、その時に後悔している学生が少なくないことも聞いているし、今後、本学の留学生との交流の場を設けるなど検討していきたい。

- ICTの更新計画がありますが、その財源について積立金等を考慮されているのか
- 今の目的積立金でも可能であるが、インフラ整備に多額の経費を予定している。実際は、機器の安価及び競争契約等で、もう少し安価になると思っている。教育に関しては、一つの講義を、本庄及び鍋島の両キャンパス内で同時に受講でき、学生が何時でも復習できるようなシステムを構築するため予算を計上している。また、他大学等へ発信できるような教育システムの構築も検討している。

- 各学部で英語だけの講義はどのくらいあるのか
- 外国人や留学生と共に実施している英語の講義が幾つかある。文化教育学部では、国際部門課程に幾つかの講義があり、学部又は研究科等によって違うが、それぞれ幾つかの講義はある。なお、英語による講義への参加数が少ないのが現状である。企業においても、外国人の採用が増えているようにある。
- 意欲をみせるのは留学生が多いため、採用も増えている。中国やアメリカでの採用が多く、特に中国においては、幹部としても採用している。
- 今度の震災が、若い学生達にとっては、閉塞状況を正す意味でも転機となって欲しいと期待している。

- 海外留学生の多くは教育関係の学生か
それとも各学部など様々なのか
- 8割が大学院生で、学部学生は少ないけど全ての学部で留学している。
- 技術系の学生が多いのか
- 技術系の学生は多いが、文化系の学生も多いです。学部別で見ると、理工学部、経済学部、文化教育学部の順となっている。
- 佐賀大学で学んで、佐賀大学の良さ、日本の良さをしっかり身につけて帰国してもらい、その後のコミュニケーションやネットワークを継続していただきたい。

- インターフェース教育とは、具体的に何を想定しているのか
- 具体的には、医学で言えば、生命のことを話すときに、具体的にどういったところで繋がっているかとか、環境なら環境で、現場に行ったりして、どんな繋がりがあるか、社会とどんな繋がりがあるかなど、机上の空論でなく、実際に現場や社会との繋がりを体感した教育が大事であると考えている。